

第三話 人生における問題、すべて、自分に原因がある

物静かな上司が教えたもの

では、「第三の覚悟」とは、何か。

人生における問題、すべて、自分に原因がある

そう心に深く思い定めることです。

では、なぜ、この覚悟が大切か。

逆境に処するための「真の強さ」が身につくからです。

では、「真の強さ」とは、何でしょうか。

そのことを考えるために、

一つのエピソードを紹介しましょう。

私が、実社会に出たばかりの頃のエピソードです。

初めて担当するプロジェクトで忙しく過ごしていたある日、
一人の上司が、食事に誘ってくれました。

この上司は、

温かい雰囲気絶やさない、物静かな人物であり、

職場の誰からも尊敬されていた上司でしたが、

しかし、どこか心の深くに、

人間としての芯の強さを感じる人物でした。

その上司と、静かなレストランで楽しく時を過ごし、食事を終え、最後のコーヒーを飲んでいるとき、その物静かな上司が、ふと、独り言のように、語り始めました。

「毎日、会社で色々な問題にぶつかって、苦勞するよ。

そのときは、会社の方針に原因があると思ったり、周りの誰かに責任があると思つて、腹を立てたりもするのだけれど、家に帰つて、一人で静かに考えていると、いつも、一つの結論にたどり着く。

すべては、自分に原因がある。

そのことに気がつくのだね……」

この言葉を聞いたとき、まだ若かった私は、「何と謙虚な人だろう……」とは感じましたが、この上司の言葉の深い意味を、理解できませんでした。

しかし、あれから何十年かの歳月が過ぎ、私自身、仕事の世界でも、私的な世界でも、様々な苦勞を重ね、いまは、この上司が語ろうとしたことが、よく分かります。

この上司は、自らを語る姿を通じて、若く、未熟な一人の人間に、大切なことを教えてくれようとしたのです。

それは、人生を歩むときに大切な、一つの心の姿勢です。

「引き受け」という心の姿勢

たとえば、自分に直接の責任が無いことでも、すべてを、自分自身の責任として、引き受けること。

この上司は、その心の姿勢の大切さを、自らを語る姿を通じて、教えてくれようとしたのです。

心の姿勢としての「引き受け」

ただ、ここで述べる「引き受け」とは、どこまでも、自分の内面にある「心の姿勢」のことです。

この言葉が意味するのは、

例えば、交通事故のような場面で、

「法律的な責任を負う」というような意味ではありません。

また、例えば、職場において部下が無責任な仕事をしたとき、その部下の責任を問わないという意味でもありません。

それは、どこまでも、自分の内面にある「心の姿勢」のことです。

例えば、それが「交通事故」であれば、

法律的責任については、どちらに責任があるか、明確にするべきでしょう。

しかし、「引き受け」とは、その一方で、心の中では、

「たとえ、不可抗力、他人の責任とはいえ、

この大切な時期に、この交通事故に遭うということは、

やはり、最近の自分の心の姿勢が招き寄せたものではないか……」

そう考えることなのです。

例えば、それが「部下のミス」であれば、

その部下の責任を問い、ときに叱責することがあっても良いのです。しかし、「引き受け」とは、その一方で、心の中では、

「この問題は、たしかに、直接的には部下の責任であるが、この部下が、このタイミングで、このミスを犯したのは、やはり、現在の自分の心の姿勢が引き寄せたものではないか……」

そう考えることなのです。

「謙虚」と「感謝」の逆説

では、なぜ、人生において、

この「引き受け」という姿勢が大切なのか。

それは、

「静かな強さ」を身につけることができます。

そして、その強さこそが、人間の真の強さであり、逆境において、最も力を発揮する強さだからです。

もし、我々が、この「静かな強さ」を身につけることができるならば、いかなる逆境が与えられても、感情に流されることなく、自分の「小さなエゴ」に振り回されることなく、目の前の問題を、自分自身の問題として受け止め、自分に与えられた課題に正対することができます。

そして、いま、その逆境が、自分に何を教えようとしているのか、何を学ばせようとしているのか、何を掴ませようとしているのか、何を伝えようとしているのか、そのことを、正しく「解釈」することができます。

すなわち、我々が、この「静かな強さ」を身につけるならば、「引き受け」ができるようになるのです。

そして、逆も真実です。

我々が、仕事や生活において問題に直面したとき、

この「引き受け」をするという心の修練をしていくと、

自然に、心が強くなつていくのです。

そして、「静かな強さ」が身につけていくのです。

この「強さ」ということについては、

かつて、臨床心理学者の河合隼雄氏が、印象深い言葉を残しています。

「人間は、本当の自信がなければ、謙虚になれないのですよ」

「人間は、本当に強くなければ、感謝ができないのですよ」

たしかに、その通りなのです。

世の中には、自信満々な姿を示し、

ときに、傲慢さを漂わせる人がいますが、

そうした人物の内面を深く見つめると、例外なく、

自分に本当の自信を持つていないことが分かります。

また、世の中には、周囲に対する不満や批判を

声高に語り続ける人がいますが、

そうした人物の内面を深く見つめると、

これも例外なく、外面的な強気の姿とは裏腹に、

心の弱さを抱えていることが分かります。

逆に、物事に対して、そして、相手に対して、

常に謙虚な姿勢、感謝の姿勢を持つという修行を続けると、

我々の内面に、静かな自信と強さが芽生えてきます。

それは、この「引き受け」という心の姿勢も、同様です。

人生で不運や不幸に思える出来事が与えられたとき、

最初に、様々な感情の波があつても、

最後は、「ああ、自分に原因があつた」と受け止め、

「ああ、これは、自分に大切なことを教えてくれている」と解釈するとう
心の修練を続けていくと、我々は、自然に、

「静かな強さ」を身につけていきます。